



松蔭 校長室だより

—校長から保護者の皆様へのメッセージです—

2023年12月1日発行

松蔭中学校・松蔭高等学校

校長 浅井直光

神よ 変えることのできるものについて、それを変えるだけの勇気をわれらに与えたまえ。変えることのできないものについては、それを受けいれるだけの冷静さを与えたまえ。そして、変えることのできるものと、変えることのできないものとを、識別する知恵を与えたまえ。
(「ラインホルド・ニーバーの祈り」より)

「変わること、変えないこと」 生徒の成長のための「学校改革」を

先月、タイガースとオリックスの優勝パレードが行われました。きっと両チームにホームラン王がいるはずだと調べてみると、本塁打数上位には誰もいません。総合力の勝利ということかと、両監督の指導力にあらためて感じ入りました。ホームランといえば、かつて甲子園球場の左右外野席の前に「ラッキーゾーン」というスペースがありました。設置されたのは戦後間もなくのことで、球場が広すぎ、タイガース選手のホームラン数を増やすべく設けられたとの話も伝わります。実際のところ本塁打王のタイトルを得た選手の中には、ラッキーゾーンへのホームラン数が多かったとのこと。その後、野球がオリンピックの競技種目となり、各地で国際規格に準じた野球場が建設されるようになり、1991年、ラッキーゾーンは撤去されました。翌シーズンのタイガース選手の本塁打数は大幅に減少したそうですが、ある目的を持って作られたものが、社会全体の動きや時代の変容に伴い、改められた例のように思います。

様々な世代の卒業生が母校、松蔭を訪ねて来られます。「青谷」バス停に降り立ち、青谷ベーカーリーの看板を見たあとで校門を入ると、声をそろえて「変わってないねえ」。校内を案内しますと、すれちがう生徒や教職員のほぼ全員から「こんにちは」と声がかかり、「皆、挨拶してくれて嬉しいです」と仰います。校長室で学校案内の冊子やポスターをお示ししながら、今の学校キャッチフレーズは「ストリーム制で英語に強くなる」「高校から松蔭で学ぼう」「コンセプトはセミインターナショナルスクール」で、昔とは中身が変わりました。全員がタブレットを持って授業を受けています、等々と今の松蔭のあり方を説明します。「ずいぶんと変わりましたねえ」と懐かしさ半分、寂しさ半分といったご様子です。5年前、公立学校同様の週5日制授業であったものを取りやめ、土曜授業を再開しました。その後、中学ストリーム制を導入。今年度の高校1年生から松蔭では初めての3コース制となりました。校内で生徒全員が同じタイムスケジュールで動くスタイルではなく、GLコース授業は平日⑦校時まで、LSコース⑥校時まで、AAコース⑤校時までとバラバラです。個性と学びの希望に合わせた教育課程が運用されています。入試制度においても、中学入試の合格発表は、校舎の2Fベランダから合格者番号の掲示版を出していましたが、現在は出願も含めてインターネットを利用しています。中高一貫校ながら高校入試も再開し、募集人数を50名としていることには多くの卒業生が驚きます。中学入試で導入した「課題図書プレゼン入試」は、教育関係者からは、読書教育に特色がある、「松蔭らしい」入試だと評判です。学校改革が目下進行中です。

ところで「学校改革」という用語は、今から20数年前に使われ始めました。全国の私立学校が次々と校名を変更したり、男子校、女子校が共学化したりして運営形態を変えることが「改革」と呼ばれました。兵庫県内でも学校名の変更や、中学校が新設されたことをご存知だと思います。「昔からのあの学校の校名が…」などと取沙汰されたものでした。江戸時代の「享保(きょうほう)改革」といった政治改革やら、松蔭を開校した宣教師が属する聖公会(英国国教会)が成立した「宗教改革」と並んで、「学校改革」が、歴史教科書の教育史のページに掲載される時代が来るかも知れません。



先月から使用が始まった新しい制服補助カバン(右側)。

左の生徒が手にするのは昨年購入したという店頭販売のバッグ。

ある方から「松蔭は丁寧な教育を行う学校ですね」との言葉をかけていただいたことがあります。その方が、どのようなエピソードからお感じになったのかわかりませんが、「学校改革」も説明責任を果たしつつ、丁寧に行うことは、松蔭のスタイルだと自負しています。創立以来、キリスト教主義学校として守ってきた礼拝や祈りの時間を人間教育の根本とし、自由でのびのびとした校風のもとで、生徒たちは神様に見守られながら学校生活をおくっています。変わらず存在し続ける空気感を言語化したものが、「オープンハート、オープンマインド」のスクールモットーです。「松蔭生であることを誇りましょう。過去、現在、未来につながる、すべての松蔭生の誇りを大切にしよう。世の中の人々に期待してもらい、その期待にも応えよう」と、これからも語り続けたいと思います。タイガース優勝と甲子園のラッキーゾーンの話から、学校の現在と未来に思いを巡らせました。学校環境の安心、安全を絶対のものとしつつ、グローバルスタンダードで質の高い教育内容の提供を目指して「変わること」と、丁寧な教育活動により人間性を育ててきた伝統を「変えないこと」を識別したいと思います。たんに学校の「器」が変わるのではなく、それぞれの時代にお預かりする生徒の個性と能力の伸長と人間力の育成を第一の目的として、今後も「学校改革」を進めます。保護者の皆様のご意見をお待ちしています。どうぞご遠慮なくお寄せください。